北極域実践コミュニティ

VOICES from the ARCTIC

Vol.12 2022.8.3

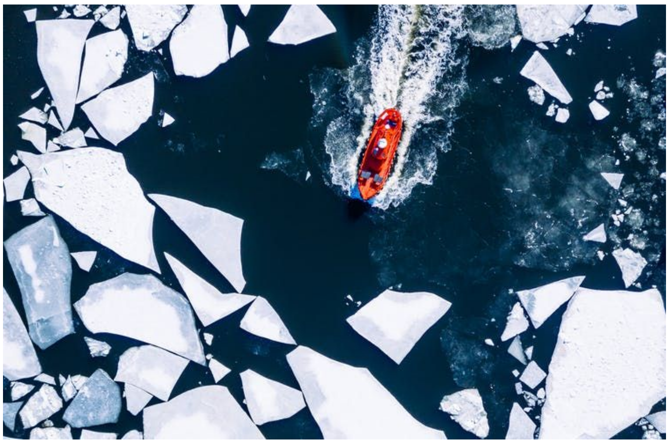
ArCS II 国際政治課題　北極域実践コミュニティ事務局

パンデミック後の北極圏で、なぜ対面式のイベントが重要なのか

「北極圏以外の国の人たちに北極圏に来てもらい、地域や生活環境、社会を自分の目で見てもらうことに価値がある」とノルウェー北極大学のベアテ・スタインベグ研究員は主張している。注目を集めている北極圏の会議に参加すれば、北欧のユニークな側面を知ることができるだけでなく、さまざまな知識を持ったステークホルダーや政策立案者と非公式に個人的に話すことができる。忘れてはならないのは、北極圏の政策立案者の多くは、実は北極圏に住んでいないということだ。
記事参照：Why in-person events are important for a post-pandemic Arctic - ArcticToday（2021.9.22/Arctic Today）

北極海の海氷が全体的に減少している原因をNASAの2人の科学者が解説

9月に入ると、夏の海氷の融解期が終わり、北半球の海の海氷が一年で最も少なくなる「北極海の海氷最小期」に入る。2021年は、9月16日に北極海の海氷域が最小となった。記録的な低さではなかったが、融解期を振り返ることで、気候変動の中で北極海の海氷が容赦なく減少していることを知ることができる。
記事参照：2 NASA scientists explain what’s driving overall Arctic sea ice decline - ArcticToday（2021.9.23/）



→Arctic sea ice has been declining overall since NASA began tracking it by satellite in the 1970s.
(Miemo Penttinen)

EUは北極圏への関与において「重要な岐路」に直面

欧州議会の外務委員会の委員長は、急速な変化の中でEUがこの地域に対する野心的な戦略を維持するために、北極圏を議会の重要な議題として維持することを約束している。ドイツの欧州議会議員であるデビッド・マカリスター氏は、「我々の委員会は、将来的に北極におけるEUの拡大と、EUにおける北極の拡大の両方を確実にするだろう」と述べた。
記事参照：The EU approaches an ‘important juncture’ in its Arctic involvement - ArcticToday（2021.9.29/Arctic Today）

2020年生まれの子供たち最大で7倍の極端な気候現象を経験することになる

科学者たちによると、現在の地球温暖化の速度と、熱を発生させる汚染物質の必要な削減を行わない国家政策によって、熱波などの気候現象の頻度、強度、期間は今後も増加し続けるという。その結果、若い世代の子どもたちは、安全性に対する「深刻な脅威」に直面することになる、と本研究の著者は述べている。
記事参照：Children born in 2020 will experience up to 7 times more extreme climate events - Alaska Public Media（2021.9.28/Alaska Public Media）

森林火災多発の北半球、二酸化炭素放出量が過去最高

（ＣＮＮ）欧州連合（ＥＵ）の地球観測プログラム「コペルニクス大気監視サービス（ＣＡＭＳ）」が２１日に公表したデータによると、北半球ではこの夏に各地で相次いだ森林火災の影響で、記録的な量の二酸化炭素が放出された。大規模な火災は地中海沿岸部や北米、シベリアなどで発生し、この夏の間に２７億トン以上の二酸化炭素が放出された。７月と８月には火災による月間の放出量がそれぞれ過去最高を記録。７月の放出の半分以上は北米とシベリアの火災が原因だった。
記事参照：CNN.co.jp : 森林火災多発の北半球、二酸化炭素の放出量が過去最高を記録 - (1/2)（2021.9.22/CNN.co.jp）

アラスカの先住民主導の2つの研究で、将来の海氷減少が北極圏のコミュニティにどのような影響を及ぼすかが明らかになる

先住民が主導する新しい研究では、氷の減少がアザラシ狩りにどのような変化をもたらしているかが明らかにされている。JGR Oceans誌に掲載されたある研究によると、ベーリング海峡を北上する海洋熱が主な要因である一方で、川の水も氷の形成や質に重要な影響を与えていることが判明した。
記事参照：Two Indigenous-led studies in Alaska hint at how future low sea ice seasons could affect Arctic communities - ArcticToday（2021.9.28/Arctic Today）

The city of Kotzebue, Alaska is seen from a U.S. Coast Guard helicopter on July 17, 2013. (Shawn Eggert / U.S. Coast Guard)

気候変動報告書が警告する複合的脅威
フィンランド・ラップランド

フィンランド気候変動パネルによる最近の報告書では、地球温暖化と降雨量の増加の結果、フィンランドのラップランドでは洪水のリスクが高まると警告している。報告書によると、この地域の6つの地域が洪水の危険性が高いとされており、これはフィンランドの他のどの地域よりも多い。
記事参照：Climate change report warns of multiple threats Finnish Lapland - ArcticToday（2021.10.4/Arctic Today）

ダイヤモンド大手デビアス社グリーンランドの海で宝探し

鉱業大手のデビアス社は、グリーンランド沖の海底に貴重なマリン・ダイヤモンドが埋蔵されているかを判断するための第一歩として、海底調査を依頼した。デンマーク・グリーンランド地質調査所（GEUS）の広報担当者によると、グリーンランド西海岸のマニトソックという町の近くにある約800キロメートルの海底を8日間にわたって調査し、先週木曜日に終了した。
記事参照：Diamond giant De Beers hunts for treasure in Greenland's waters - ArcticToday（2021.10.5/Arctic Today）

超高層木造ビルが誕生
スウェーデン北部

スウェーデン北部に建設された20階建ての木造ビルには、図書館、6つのシアターステージ、ホテルが入っており、世界で最も高い木造建築物の一つとして、アート、コンサート、ミーティングなどが行われている。この建物のエネルギーシステムは、可能な限りカーボンニュートラルであることを目指している。
記事参照：Northern Sweden becomes home to one of the world's tallest wooden skyscrapers - ArcticToday（2021.10.5/Arctic Today）

ボーフォート海のホッキョクグマは階段的に減少している

南ボーフォート海の脆弱なホッキョクグマの個体群では、段階的に減少する期間の後に、より長い安定した期間が続くというパターンが現れている。2003年から2006年までは生存率が低く、2006年から2008年にかけては生存率が向上し、その後は安定していましたが、2012年に急激に減少した。
記事参照：Beaufort Sea polar bears are declining in a stair-step pattern - ArcticToday（2021.10.8/Arctic Today）

■■
北極域は、気候変動の影響により大きな変化に直面しています。その変化は、自然環境のみならず、政治経済、社会、北極先住民及び住民の生活や暮らしにも及び、それらが複合的に絡み合った形で相互作用しています。こうした変化への適応、適応能力やレジリエンスの育成のプロセスは、複雑で予測困難な社会的課題であると同時に、現地住民のwell-beingを獲得するための機会となっています。

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。今回のVol.12は、2021年9月後半および10月前半のニュースを主に掲載しています。
■■

発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
監　修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）
E-mail：tdcop@arc.hokudai.ac.jp
WEBサイト：https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/